

様式第 1 号

会 議 録

| | |
|-------------|---|
| 会 議 の 名 称 | 平成 2 5 年度 第 1 回所沢市学び改善プロジェクト委員会 |
| 開 催 日 時 | 平成 2 5 年 7 月 1 8 日 (木) 午後 3 時 ~ 午後 4 時 3 0 分 |
| 開 催 場 所 | 所沢市立教育センター セミナーホール |
| 出 席 者 の 氏 名 | 〔 委員 〕 赤堀侃司白鷗大学教育学部長・教授、塚田幸久小学校長 会長、平塚俊夫中学校長会長、木村良孝小学校 P T A 代表、加藤 雪乃健康づくり支援課主査、橋本浩志社会教育課主査、高橋亘ス ポーツ振興課主査、岩崎真由美主任 (竹内和代こども支援課こど も相談センター主査の代理)、小俣芳彦保健給食課主査、宮下広 子南小学校区こども会育成会元会長、新妻紀子保護司、若山芳男 スポーツ推進委員会前会長、小出敦子 N P O 子ども大学代表理事、 大寄尚子所沢第二幼稚園長、藤川岳中学校教諭、藤田恵子小学校 教諭 |
| 欠 席 者 の 氏 名 | 島田高志中学校 P T A 代表、北田憲一市スポーツ少年団副本部長、 斎藤伸壽青少年課副主幹 |
| 議 題 | 1 協議及び報告 (1) 本委員会について (2) 「学力向上に向けた 3 つの提言と取組」について (3) 平成 2 4 年度までの成果と課題について (4) これまでの成果と課題を踏まえた平成 2 6 年度以降の取組 の方向性について |
| 会 議 資 料 | 1 所沢市教育振興基本計画 一部抜粋 2 平成 2 5 年度所沢市教育行政推進施策 一部抜粋 3 所沢市学び改善プロジェクト推進事業について 4 所沢市学び改善プロジェクト平成 2 4 年度実績報告リーフレ ット 5 平成 2 4 年度所沢市学び改善プロジェクト推進事業モデル校 研究報告書 6 学び改善プロジェクト委員会 協議資料(事前配布 表紙白) 7 学び改善プロジェクト委員会 協議資料 (当日配布) |

| | |
|-----------|---|
| 担 当 部 課 名 | 学校教育課 電話 04(2998)9238 出席者 内藤隆行教育長、川音孝夫学校教育部長、齋藤敏男学校教育部次長兼学校教育課長、沼田芳行学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、出居正之学校教育課指導主事、日下宏之学校教育課指導主事、池之上敦子学校教育課指導主事、本間博学校教育課指導主事、小山義昭学校教育課指導主事 |
|-----------|---|

様式第 2 号

| 発言者 | 審議の内容（審議経過・決定事項等） |
|---------------|---|
| 司 会 (指導主事) | 本日の記録は要点記録とし、発言者は、すべて「委員」として記録する。 |
| | 開会 |
| 司 会 | 進行は事務局の出居が担当する。平成 25 年度第 1 回所沢市学び改善プロジェクト委員会を開会する。 |
| 司 会 | 教育長より挨拶申し上げる。 |
| 教育長 | <p>7月10日付教育長を拝命した。3月まで市役所の保健福祉部長を務めていた。また、在職中は学校教育課、社会教育課の職員として18年携わってきた。教育長という身に余る重責だが、微力ながら川音部長以下スタッフと所沢の教育の発展のために尽力したい。</p> <p>学び改善プロジェクトについては、心身のたくましさ、そして未来を拓く知恵、ふるさと所沢を愛する心、この3つのキーワードを学校教育、家庭教育、地域において実践していこうということで、教育委員会で取り組んでいる。これまで3つの提言がされ、教育委員会もこの3つの提言を着実に実行している。授業における改善、また家庭における子供たちの挨拶や体験、地域の活動を、学校教育、社会教育等、また地域のさまざまなネットワークの御協力をいただいて実践していきたい。</p> <p>学力向上に向け教育長として考えていることは、心の充実とは、生きる力を具現化していくには、たくましく生き抜くということである。つらい思いをするときもあるし、勉強やスポーツをしたりすること、就職活動、若者なら婚活でさえもたくましく生き抜く力のもとになる。また、今日集まった委員の皆様には、かつて私が携わっていた社会教育でお世話になった方もたくさんいらっしゃるの、心強い。女性の委員が多いのも、男女共同参画推進の観点から素晴らしい。ぜひ、女性の力を発揮していただいて学び改善プロジェクトが赤堀先生の御指導を受けて、子供たちにとってよりよいものになるようお願いしたい。</p> |
| 司 会 | 委嘱状の交付を行う。今年度新たに委員を委嘱する方に委嘱状を交付する。 |

| | |
|-----|--|
| | 委嘱状交付 |
| 司 会 | 委員の紹介並びに事務局自己紹介 |
| 司 会 | 委員長の選出を行う。設置要綱第5条により委員長については、委員の皆様の互選となっている。いかがか。 |
| 委 員 | 本年度も赤堀先生にぜひ委員長をお願いしたい。 |
| 司 会 | 拍手多数ということで赤堀先生に本年度もお願いするということによいか。赤堀先生をお願いしたい。 |
| 委員長 | <p>学び改善プロジェクトに参加させていただいて大変うれしく思っている。西所沢に住んでいる関係だと思うが、この学び改善プロジェクトや、あるいは所沢のいろんな学校でお世話になっていることをありがたいことだと思っている。特に地域の中でいろんな活動ができるというのは、非常にうれしい。教育長がお変わりになり、力強く生き抜く力を身につけさせることに大賛成である。そのための委員会であると思うので、先生方の忌憚のない意見を賜って、所沢の子供たちに元気を与えていきたい。先ほども教育長とお話ししたが、小学校であろうと幼稚園であろうと大学であろうと全く同じではないかという気がする。少くらのことで、落ち込んでしまう、またコミュニケーションができない、いわゆる自分の中に閉じこもってしまう学生や生徒が多いような気がする。昔のように何かもっと元気があって少くらのことは大丈夫、というようなことがあまりなく、我々の年代のほうがまだ元気な気がする。学生に勇気を与えているような気がする。それであっては今後の日本はもたない。これからは、どうしても国際的な社会の中で生きざるを得ない。今日保護者の代表PTAの代表の方もいらっしゃるが、企業を見れば今新聞を見ると、外国人の雇用の人数が多いという現実を見たら、このまま行くと日本はかなり危ないと思う。少なくとも学力だけではなくて、いろんな面での人間力をつけていきたいなと、私も感じている。そういう点で、3つの提言ということを前の委員会から受け継いでいるが、これを所沢の子供たちにぜひつけてもらい、彼らが大人になっても、消えてなくなる力として、伝えなくてはならないと感じたので、教育長の言われる通り、微力ながらまず勉強させていただきたいと思っている。</p> |
| 委員長 | 副委員長の指名に入るが、ぜひ平塚先生をお願いしたい。よろしいか。 |
| 司 会 | 以後の進行については委員長をお願いする。 |
| 委員長 | これに基づいて議事を進行させていただきたいと思う。次第の、5の説明を、事務局のほうから説明をお願いする。 |
| | 説明 |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>資料の送付については、かなりの量で、配布が直前になったこととお詫びする。新しく本年度委員になった方も、継続で委員をお願いしている方もいるので、過去の記録を追えるものにした。引き続き委員をお願いしている方は、わかっている内容もある。この場で、本委員会のこれまでの大まかな流れについて説明をする。配布している資料の中から、所沢市学び改善プロジェクト推進事業についてという白抜きの題がついている冊子を参考に進める。</p> <p>本委員会は、平成21年1月に設置され、同年7月に、学力向上に向けた3つの提言が出された。学校、家庭、地域、それぞれの取組がそれにもとづいて述べられた。1ページに当たる部分に、学力向上に向けて3つの提言と取組という形で示した。</p> <p>平成23年度からは年2回、昨年は3回の委員会を開催し、市内各小・中学校のモデル校委託、委託研究が始まり、本年で3年目を迎える。本年度は、本年度のまとめと、まとめを踏まえた平成26年度以降の取組の方向性について、意見を伺いたい。なお、本年2月の委員会に参加いただいた委員さんの中で、学力がテーマであっても、社会問題となっているいじめ、子どもたちの家庭環境、不登校など、今日的な教育的な課題についても考えていく必要があるのではといった意見もあったが、年に2回の委員会ということと、設置要綱にもあるように、この3つの提言に基づく取組の推進ということをテーマに進めることにするので、今回についても提言に基づく取組をどう総括するか、どう発展させていくかという視点から、学力向上に向けた御意見をいただきたい。</p> <p>資料の2ページから7ページまでが、学び改善プロジェクト推進事業3つの提言を考えるにあたって、所沢の子供たちの状況についての分析を載せている資料である。主に平成20年度、21年度、今から4、5年前の全国学力学習状況調査の結果から、所沢の子供たちの、課題、提言のそれぞれの取組が決められていたものである。8・9ページについては、教務主任研修会、校園長会等で、授業でのめあての提示についてまとめたものである。10ページから30ページまでは、ノーマディア・チャレンジということで、早寝早起きチャレンジを含めて、チャレンジシートの内容と初年度から3年間の追跡ができたので、3年間の取組のまとめたものを載せた。31ページから35ページまでは、現行の学習指導要領において、学校での体験活動が重視されていることを受けて、各学校から昨年度の報告を受けたものを、小学校、中学校それぞれ載せた。最後に36ページ本年度モデル校委託を受けている学校の研修の計画・内容についてまとめたものである。過去2年間で同じような形で16校ずつ研究委託ということで研究を進めてきており、今回の小</p> |
|-----|--|

| | |
|-----|--|
| | <p>中併せて15校をもって全校がモデル校研究を実施したことになる。今年度のモデル校については、2月の委員会の時に、研究発表を報告する。</p> <p>雑駁ではあるが、本事業と、今までの流れの説明をした。本年度までの取組と課題、来年度以降ということについては、協議に入ったところで御説明の時間をいただければということをお願いする。</p> |
| 委員長 | <p>所沢市学び改善プロジェクトについて、膨大な資料だが、短い時間で説明してもらった。これについて御意見等伺う。24年度までの取組と成果ということなので、これもまとめはその後説明いただくのか。</p> |
| 事務局 | <p>協議資料を2種類、委員には事前に送付したものと、事務局で少しまとめたものを入れたものを本支配布している。</p> |
| 委員長 | <p>説明は協議の中か。</p> |
| 事務局 | <p>はい。</p> |
| 委員長 | <p>説明いただいたのは、(2)(3)(4)でよいか。</p> |
| 事務局 | <p>はい。まとめた形にさせていただいた。</p> |
| 委員長 | <p>学び改善プロジェクト推進事業の内容等について、一応説明していただいたが、資料がもう一つある。送っていただいたものの中の学力状況調査はよろしいのか。</p> |
| 事務局 | <p>はい、後ほど。</p> |
| 委員長 | <p>所沢市学び改善プロジェクト3つの提言について、それぞれの内容が報告されたが、質疑応答あれば、事務局とやり取りさせていただくが、いかがか。</p> <p>協議の、平成24年度の成果と課題というところで、皆さんの意見をいただいて、場合によっては前に戻ってもよいかと思う。質疑応答は協議の中でも伺うということで、6番目の協議に進むが、平成24年度成果と課題についてまず説明をいただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>主に2つの資料を中心に進めさせていただく。事前に送付した、学び改善プロジェクト協議資料、表紙は項目だけ挙げたものと、本支配布した中身について記載があるものの2種類になる。まず記入がされている今日お配りした薄いほうのものを御覧いただきたい。</p> <p>これまでの成果と課題で、学校・家庭・地域それぞれ提言に基づいた取組が行われているので、内容について、成果といえるものを印で、課題とされるものは という形で示した。こちらに挙げたものは、今までの話合いの内容や、事務局で学力検査等のデータを分析したものからまとめた。だから、ここに上がっているものがすべての事柄というわけではない。資料等を御覧いただいた中で成果や課題について意見を出していただいて、より確かなものにしたい。2枚の資料は、昨年秋の進捗状況で、学校へアンケート調査</p> |

をしたもののまとめになる。昨年度2月の委員会においても同じものを配布している。学校での取組の状況、家庭での状況、地域行事への参加状況等について、各学校から出たものをこちらでまとめたものになる。

事前に送付した白い予備資料の内容について説明する。これは、主に本年2月の委員会の中で委員から出た、効果、学力の測定をどんな形でできるか事務局でいくつか準備したものになる。

1枚目の全国学力学習状況調査の結果分析についてだが、平成21年度の6年生の全国学力学習状況調査と、平成24年度中学校3年生の調査は、基本的には同じ子供が受けているということになるので、学び改善プロジェクトの中で課題となっている、自分の考えを書く・説明するという部分に関して、どのように変化したかを追ったものが、1枚目の¹となる。こちらを見ると、平成21年に課題となっていた部分については、右上がりになっているので、おおむね上昇傾向にあるということが出来る。また、平成24年度の調査については、全部の学校の調査ではなく、抽出という形なので、平成21年の調査の母集団と同じではないものの、項目ごとに見ていくとやや上昇していることがわかった。左の縦軸の点数については、市の点数の平均点は公表しないことになっているので、全国平均の差ということで見えていただくようになる。それだけ全国平均よりも高い数値が見ることができたというのが¹ということになる。

²だが、平成21年度小学校6年生の調査と、3年経過した中学校3年の調査で、無回答率、つまり解答欄を空欄のまま提出する割合が、どのように変化しているのかを調べた。今の学力には、学習に主体的に取り組む態度、いわゆる意欲の部分を学力の一部であるという考え方で、学力を捉えようとしている。意欲をどう測るかは難しい課題だが、一つの材料として答えを空欄のままにしないで、間違えても最後まで頑張る、空欄のまま提出しない、そこが子供たちの一つの頑張りの尺度の一つにはなるのかということで、調べた。こちらは右下がりだが、無回答率は空欄のまま出してしまうという率なので、低いほうが頑張っているという見方ができる。そこにも書いたが、無回答率については全国的にも下がっているということなので最後まで頑張っているということが増えたといえるのではないかと思う。

次ページは、21年度から24年度まで3回実施された調査において無回答率の推移を調べたもの。平成23年度は東日本大震災の影響で、学力調査自体は行っていない。教科によるばらつきは出ているが、おおむね右下がりなので、小学校については、まだ全国平均と比べるとやや高いが、全国平均と所沢との差が縮まってきている。中学校については、全国の無回答率の平均も低い数字になったということで、頑張ったといえるのではないか。

次ページは、平成21年度と昨年度24年度の家庭や地域での提言のもとになった、子供たちの質問の答えを比較した。家庭における勉強時間の習慣化、携帯電話とテレビゲームの使用時間でまとめた。勉強時間については、まったく勉強しないという子供の数が小学校で少し増えてきているのがわかる。やる子とやらない子の差が広がっているということで、中学校についても30分以下という子供の数は少し減り、全体では勉強する子供の数は割合からすると増えてきている。携帯電話とテレビゲームの使用時間については、ここ3、4年で、学校であるとか、お子さんが身近にいらっしゃる方はお分かりかと思うが、携帯電話の普及率が上がったことから、通話やゲームをしている率が増えている。テレビゲームについては、やる子とやらない子とデータの上では少し差が広がっていることもあるが、今、携帯電話やスマートフォンでゲームをするということがあるので、全国の調査から、テレビゲームをしますかという答えは、テレビゲームという言葉が子供たちにしてみると、やや離れたものになっているのではないかと。その辺がやっている子供の数が減っているという結果が出ている。そこには二極化という、いわゆるテレビゲームという概念が、今の子供たちからそぐわぬことができてきている。

次のページは、地域行事への参加ということだが、平成21年に挨拶をすることは多いけれども、地域行事に参加することは今一つだということで、挨拶から地域行事へ参加しましょうという、今回の流れができてきている。この結果を見ると、中学校については、挨拶等については上がっているが、地域の行事に参加している、あるいはどちらかというに参加しているということについて、全国の割合よりも、所沢のデータは少し下がっている。人数については、地域行事に参加する子供の数は、かなり増えているので、数的にはもう少し多くの子供が参加していると報告するのかと予想されたが、実際はほぼ変わらず、やや減少となっている。これは抽出校の調査であるということで、地域によって地域行事の数に差があることと、学校でよくいろいろなアンケート調査をすると、意識が高くなると自己評価が厳しくなるというような状況もあるので、一概には言えないが結果としてこうなった。

次ページからは、平成17年から行っている3つの達成目標の所沢市について、3つとは、学力・規律ある態度・体力の3つということ。それぞれの達成率を、県で目標を決めていて、所沢市の子供たちはどうであるかということについて述べる。県としては、学力に関しては目標としてはすべての子供に身につけてもらいたい基礎的なものなので、学力に関しては95%、規律ある態度に関しては80%の達成率というのを目標にしている。学力については、所沢市のところを見るとわかるが、依然がんばりどころである。

規律ある態度については、表になっているものだが、左の項目がこういう

| | |
|-----|---|
| | <p>ことができるようになってもらいたいということで、小学校から中学校まで継続して調べているものである。白い部分が、まだ達成率が80%に届いていないところになる。やはり、全県においては、小学校の「学習準備」というところと、小学校高学年・中学校の「話を聞き発表する」という項目については、学び改善で課題となっている部分でもあり、県も同様で、所沢市でもまだ80%を超すには至っていない。</p> <p>残りの2ページは男子・女子の体力ということでデータを載せた。このデータで見ると、小学校のところで、の印が多くて平均よりも下回っているということでこの数字だけ見ると、かなり所沢の子供は体力がないののではないが、この項目については大変ではないかということになってしまう。埼玉県全体は、全国の中でも県の数値は優秀だそう。だから県の中で見ると、こういった形になってしまうが、国と比較すると、特に女子はずいぶんがつく。ただ国と比較して良ければいいということではないので引き続き課題になっているところを吟味していきたい。以上お配りした資料について説明をした。</p> <p>先ほど委員長から話があったが、事前に送付した資料の中に埼玉県の学習状況調査のデータもある。こちら細かい話をすると時間が無くなってしまうので、経年で見えていくと、小学校については、県の平均よりは高いほうにあるのは間違いない。また中学校については、社会理科が県の平均と比べて課題があり、指導の改善が必要という分析をしているところである。なお、この冊子の、県の学習状況調査の結果については、一般には公開していないもの。今回話し合いをしていただくということで委員の皆様にお配りしているものである。取扱い等には注意し、外部の方に提供してしまったりということがないように御配慮願いたい。急ぎ足ではあったが、学力等の分析等々を含めて話をした。また、各学校の研究については、昨年度のものと一緒に昨年度のリーフレットを添えたので、取組の把握ができると思う。今のような分析をふまえて、成果と課題を入れたものは、こちらで記載したもの。細かいところまで話せなかったが、これからの成果と課題ということで話を深めて、26年度以降の取組、今年度の取組も含めてだが、取組をどう位置付けていくかということについて意見を伺いたい。</p> |
| 委員長 | <p>データに基づき丁寧に説明していただいた。これから委員の皆様で協議になるので、率直な意見感想と、26年度以降の取組の方向性、後半はそれについて意見を賜りたい。まずは24年度までの成果、そして、3年間の成果を見ると、このような課題があるというようなこともまとめてこれをふまえてご意見を賜りたい。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | 確認だが、これまでの成果と課題というのが、根拠がどこに求められているのか、説明願いたい。 |
| 事務局 | こちらの根拠になったのは、これまでの取組の結果のデータ、今回21年度と24年度の学力の差のデータ、あとは今日配布した資料の、各学校からご報告いただいた成果と課題をもとに、こちらのほうで提案させていただいた。 |
| 委員長 | そのデータと成果と課題の関係がわかりにくかったという感じがした。たとえば学校印がついている3年間の取組でだいたいそんな傾向があるというような考えであるか。 |
| 事務局 | そのような考えである。 |
| 委員長 | ありがとう。 |
| 委員 | 個人的な感覚としては実際に教室を訪問して、授業を見て感じたものだが、市全体での調査を通してまとめられたということで、今の説明でわかった。 |
| 委員長 | 小学校における子供の実態等も含めてご意見賜りたい。 |
| 委員 | 小学校の担当で24年度の県学習状況調査の業績と取組を見させていただいた。国語科と算数科が上位、ブルーの表示になっているということだが、小学校の場合は低学年の国語科の時間数が多い、それから算数だと、少人数指導という、複数で担当をしているとか、時間数だとか教員の定数の問題とかということが、この3年間確実に出てきているという気がする。その一方で、いわゆる理科とか社会科というものについては、本校でも高学年になると、一部教科担任制をやっているが、中学校のような、たとえば理科とか社会という教員免許を持つ者が直接あたっているわけではないので、中学校に行っても理科でも社会の勉強の取組等が、もう少し小学校側も理科とか社会という教科についてもきちんと方向性を見定めながら取り組む必要があるのではないか。 |
| 委員長 | 大変貴重な意見をいただいた。それでは小学校の立場中学校の立場も、教員サイドの方からあるいは先ほどの話をふまえて、中学校教員の立場からどんな印象をもたれたか、続いて小学校教員の立場からコメントをいただければありがたいが。 |
| 委員 | 体育担当なので、5教科の詳しいことは分からない部分があるが、勤務校は体力が非常に低いということが学校の課題にあり、ここにも新体力テストの結果が載っているが、市全体で見るとかなり県平均を超えている種目もある。しかし、本校の場合などは1年生の段階で県の平均を超えている種目が1種目しかないというような現状が昨年一昨年とあり、これは変えなくてはと思い取り組んでいる。そのように学校によっても差があるということと、 |

| | |
|-----|---|
| | <p>学校の中でも本当によく体を動かす子と全く動かない子と両極化しているというのがすごくあり、その辺を体育の授業や学校活動の中で体力を向上させるというのが筋だが、中学になると、部活動で体力の向上をしているという実態が実際あり、純粹に部活、運動部に入っていない生徒が1年から3年で、どれくらい向上していくのか、というようなことを追いかけていく必要があるというところを考えている。今年度の新体力テストの結果も出ていろいろな取組を授業で毎時間やった結果、かなり向上したという実績もあるので、今後も努力して、市内にも広めていっていただきたい。</p> |
| 委員長 | <p>続いて小学校の方で、もし可能であればこれまでの成果の中で学校側では授業における1時間の学習目標の提示もほぼ定着しているのではないかという成果があるし、またいろんな面での小中連携の取組も進んでいるようだというコメントがあった。それも含めて何か御意見があったらお願いしたい。</p> |
| 委員 | <p>シンプルだが、1時間の学習目標・課題の提示、見通しを持たせて授業を作っていく、ある程度の枠を作ることによって、若手も授業をやりやすくなるような助言を校内でできるようになってきたというのは、実はこの学び改善プロジェクトのモデル校が全学校に3年間にわたって回ってくるということがいい意味で縛りになっているように思う。本校は今年当たっているので、23年度や24年度の実践の良さを取り入れながら家庭学習の手引きを作ろうと思ってみたり、前任校にあったものを使ってみよう、というように学校を超えているようなことを共有できているということで、先生方の意識も高まっている。各学校の特色を生かしつつも、中学校区では連携を組まない、と思っており、安松小との連携、話し方名人、聞き方名人を提示しようかということも、回りの学校と連携を組んで、安松中学校と一緒にやっているというような、中学校区での話し合いも電話でできるようになってきた。最後に、学校の中の最後の項目のモデル授業の方向性、この25年度で終わってしまうのはとてももったいないと思っているので、バージョンアップをしたり、プラスアルファしたものを26年から丹念に調べて、研究校が突き抜け出ている所沢市ではなくて、どの子どもたちも義務教育で力をつけてもらったと思ってもらえるような学校教育になっていけばいいと思っている。</p> |
| 委員長 | <p>おおむね学校での成果と課題はこのようだということ。体力にはまだまだといただいて、学校の温度差もあるようで意見を出す側から御覧になって家庭や学校における成果と課題について何かあればお願いしたい。</p> |
| 委員 | <p>各信号や交差点で、ぜひこういう形であいさつが必要なことだが、3年間の取組の中で、地域の人から元気にあいさつができるようになったということは、非常にPTAの立場としては感じるところだが、いかがか。</p> |
| 委員 | <p>あいさつの話があったが、小さければ小さいほど家庭教育の力が重視され</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>るものだから、保護者のみなさんたちには子供の模範になるようなあいさつや行動ができるようにということで、幼稚園では親の姿勢を啓発するような対応をしている。なかなか伝わらない人もいるので、子どもにこういう風にするんだよと伝えて、お母さんに伝わるような形をとったりしている。</p> |
| 委員長 | <p>24年度の成果と課題だが、どなたかいかがか。26年度の課題というのはこれに基づいた課題ということか。</p> |
| 事務局 | <p>はい、基本的には成果の部分と課題は裏表になっている部分もあるし、課題の部分をどうしていくかということになっていくと思う。</p> |
| 委員長 | <p>26年度の資料説明はあるか。</p> |
| 事務局 | <p>特には今の段階では用意していない。ただ、提言については設置要綱にあるように、提言に基づく取組の推進ということになっているので、最終的に2回目に向かってということと言うと、提言があるので、取組をどのように継続発展させていくかというところが具体的な話し合いのポイントになってくると考えている。</p> |
| 委員長 | <p>手元の協議資料は、印が成果で課題が になっているが、それぞれ3つの提言に基づいて学校で取り組むべきこと、家庭で取り組むべきこと、地域で取り組むべきこと、主に先ほどから先生方に御発言いただいて、こういった成果は確かにあるが、 のところの課題はどうするのかという話がある。それから家庭においてもこういう部分は定着しているのではないが、ただし、まだ課題はあるようだということもあるので、26年度以降の課題の中で考えていただこうと思う。それから地域のところも先ほどのようにこういう成果があって、ただ課題もそこにあるような視点の話もあるが、これについて事務局は特に説明なくてよろしいか。</p> |
| 事務局 | <p>お話しいただく中で不足等、必要な場面があるようならば、またその際にということ。</p> |
| 委員長 | <p>3つの提言の取組の方向は課題があるので、課題を念頭に置いていただきながら意見を、合わせて26年度以降の取組の方向も含めて意見を伺えれば。そして、24年度までのこういう成果があったという部分もそこに書いてあるので、これは確かにそうだという意見があれば、対策としてはこうだというふうにも説明させていただきたい。その資料をもう一度御覧いただいて学校・家庭の取組でも地域の取組でも結構だが、それと3つの提言について、前回初めにお送りいただいた学校の提言の123のところ、学習目標の明確化とか発問の工夫、家庭においてはノーメディアチャレンジ早寝早起き朝ごはん、それから地域では挨拶や地域行事への参加というキーワードがあるので、それにもとづいた提言について、どういうふうに取り組むかということ</p> |

| | |
|-----|--|
| | も併せて意見を賜りたい。 |
| 委員 | <p>家庭という欄で、ノーメディアチャレンジ早寝早起き朝ごはん、という取組が定着したということで、課題として、ノーメディア自体が目的になってしまい、実はこのノーメディアも市教委のほうも活動をしているが、数年ほど前に所沢市 PTA 連合会では P 連挙げてこういう提言をしている。P 連の中で、ノーメディアチャレンジをするということに対しての意義というものを、会長がメッセージとなり、親に対してなぜノーメディアが必要かこういう活動が必要かということ、以前活動していたが、今はしていない。休止したからかどうかわからないが、実際今こういう活動とは別に市教委が旗を振ってやっているが、やはり学校現場では、携帯やスマホを中心に、いじめだとか仲間はずれなど陰湿な問題がどんどん表面化しているのは事実である。実際、この先が見えないというのは、活動するのが目的になってしまってなぜ活動するのかという意義が見えなくなってしまうと考える。これははっきり言って学校の問題ではなくて家庭自体の問題だが、実際、スマホや携帯を与えているのは親なので、親の問題であり、先ほど幼稚園の先生が言われていたように、家庭教育が一番の問題になっている。ノーメディアチャレンジをするときに、わかりやすいものを各学校、児童生徒に配布して、やっていこうということを実施はしていただいているが、その根底になぜこういうことをするのかということ、まず親が理解をしていかないと、ただの活動だけになってしまうので、活動の意義を親に徹底しなくてはいけない、というのが一方にある。その中で家庭教育というのは、所沢市では家庭教育学級という、とてもいい活動がある。この家庭教育学級と連携をとって、ノーメディアチャレンジというものを、意義を推進するような運動をもうひと押しすれば、課題の解消につながると感じている。家庭は顔が見えないというか学校と違ってちゃんとした組織がないので、どこに何を誰にいついいのかわからない、確かに P T A 連合会というものはあるが、それははっきり言って意識のある親の集合体である。問題は本当に意識してほしい親御さんたちに伝わるためにどうしたらいいか、これは P T A の会長さん・役員さんたちが頭を痛めているところだが、家庭は組織ではないので、できたら家庭教育学級とか、P T A とか、組織されたものを通して、各親御さんに少しでもノーメディアチャレンジの意義というものを盛り込んでいただけたら課題の解消にもなると思う。</p> |
| 委員長 | ノーメディアチャレンジについて深いものがあると思うが、なにか意見があるか。 |

| | |
|-----|--|
| 委員 | 私もノーメディアチャレンジの意義とか、原点に戻って確認していく作業が必要だと思う。学校の取組の中でも、地域の取組の中にも地域行事で何を学ばせるかという視点が不十分というのがあるが、根底では共通していると思う。学校でも勉強を通じて教育活動をしているが、行事を消化するくらいがあるので、この行事がなぜあるのか、何のためにあるのかというのと同じようにそこをきちんと押さえていかないと、得るものが少なくなってしまう。そういう意味ではノーメディアチャレンジの趣旨を浸透させていく手立てを考えていく必要がある。それと、もうひとつはその上に家庭学習の手引きと学校と家庭が協力して家庭学習の習慣みたい取組が進んだというのがあるが、こういう効果があることを、もっとどんどん広めていくということが大切ではないかと考える。 |
| 委員長 | これについて何かほかにあるか。 |
| 委員 | <p>皆さんの意見に共感するものが多かった。家庭の問題が大きくなっているのは私たちの業務の中でもすごく大きなもので、やはりノーメディアも親の態度が変わらないと、そういう親を子供は見ているので、親が変わらない限り、説得力がない。親の態度をちゃんと示して、子どもにもこういう取組も一緒にやっっていこうというところを示していかないと、変わらないかなと感じた。</p> <p>相談の中で感じているのは、家庭環境の問題というのが、就園した際、就学した際など節目の時の家庭の状況で、今まで支援してきたことが途切れてしまうので、学力だけでなく子供の抱えている問題を節目ごとに対応していけるといいと思う。</p> |
| 委員長 | 家庭と学校との関連・連携について、社会教育ではどうか。 |
| 委員 | P連との関連だが、一昨年まであったが今はやっていない。ノーメディアチャレンジは、見たことがあるが、夏休みなどだけでなく実施しているのか。 |
| 事務局 | 年に2回実施している。集計は抽出人数による。 |
| 委員長 | これは、夜8時以降はテレビを見ないとか携帯を使わないとか、そういうルールか。形式的になってきた感じがするが、家庭での取組がどの程度深化していくのか危惧している。そのことで何かあれば。 |
| 委員 | <p>このような取組は、毎日だと大変だが、年に何回かでも実施してほしい。</p> <p>1歳半健診の時に、9時までに子供が寝ている家庭は29%で、すでに9時を過ぎても起きている子が7割いる。親が働いていて支援が必要な家庭が遅くなってしまう傾向がある。幼稚園の子供は3歳児健診の時に9時までに寝る子が85%くらいで、それが5歳児になると64%に下がってくる。早く習慣をつけられること、特に小学校の時に9時から7時までの10時間脳を</p> |

| | |
|-----|---|
| | 休ませると、神経が落ち着く、これは社会性とも呼べるが、熱中症が起きるような暑い中で授業に集中するには、それだけ神経を集中することが必要なので、睡眠不足のことを、小さいときからやっているが、忘れがちになってしまう。学習時間を確保するためにも、子供に楽しかった、気持ち良かったといった小さなこともメリットである。だから継続してもらいたいと思っている。 |
| 委員長 | ノーメディアチャレンジや学校のモデル校とか地域とかの課題について、まだ発言されていない方お願いしたい。 |
| 委員 | 先日小学校の評議員会があり、基本的なところでつまづくのではないかという話をした。掛け算は $1 \times 1 = 1$ 、 $1 \times 2 = 2$ に向かってずっとやっていけばいいが、割り算になってつまづくのはなぜか、それは現実のものに見比べていないからではないか、学校ファームの関係で、4年間のお付き合いで今も顔だけ出しているが、たとえばジャガイモを半分にすれば2分の1になる、3つに切ると3分の1になる、そういった現実のものが家庭に戻っても、割り算の基本であることを賢い子たちはすぐ学ぶが、ちょっとつまづく子はつまずいてしまう。小数点になりパーセントになり次から次へ進む。現実の話でいくべきではないかという話をした。たとえば、これだけの面積の畑があったとしたら、農業専門で、3年に一度の輪作体制をとっているの、1000ヘクタールあったらその3分の1はいくつになるか、という現実にあった応用問題を出せるように学校でできればよいのではないか。中学校では、3デイという職場体験を農家を中心にやっていた。行事だからやっているだけであって、先生方の前向きな姿勢が見えない。先生に負担になってしまっている部分がある。なぜなら地域に出向いていかなければならないが、校長教頭、管理職は前向きに外に出ようとしているが、一般の方はなかなかPTAとの接触はあっても地域そのものが見えていないのではないか、地域に何を学ぶかということを私は言いたい。 |
| 委員 | ノーメディアの期間が1か月間、1週間とあるが、家庭にどれだけ浸透しているか。 小中の連携の中で、具体的にはどのように授業について小中の連携がされているか聞きたい。自分の子が大学受験を目指したいというように、最近意欲が出てきていることがうれしいという不思議な感じがしている。 |
| 委員長 | 小中の連携について何かわかる方お願いしたい。 |
| 委員 | 授業の連携は、中学校の教員が小学校に出向き、授業をすることが多いと思う。教科については本校の場合は、理科の実験、体育、英語を、他校でも体育が多いと思う。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>ノーメディアでは、スマホの影響がかなりある。スマホが出てきて随分と環境が変わってきたと思う。親は携帯でスマホができないので、子どもが何をしているかわからないというと、研究しないとだめだよと言われた。機械に弱いというか、LINEで子供同士話をしているが、何をしているかわからない、これではいけないがついていけない状況で、途方に暮れてしまっている。</p> <p>地域の方では、安全安心な地域と学校づくりの方でも目標として、挨拶運動と、交通安全と、地域の行事に参加することとしているが、やはり人は人の中で生きていくものなので、顔と顔を見て話をするのが大事だということを、学校・家庭だけでなく地域で見えていくという状況にしていけないと子供を育てていくことが大変な時代だと感じている。</p> |
| 委員 | <p>家庭学習は、家で学習するという習慣がなくて、塾に頼ってしまう。家庭学習の定着に向けて、習慣がついてくれればいいなと思っている。</p> |
| 委員 | <p>保健給食課では、朝ごはんについて、欠食調査をしているが、年々欠食率が下がってきている。所沢では平成18年度が1.9%だったのが平成21年度には0.9%に、県は1.0%から0.4%に下がった。朝食をとるということは浸透してきた。中身は主食と味噌汁というのが40%で、県の栄養士や所沢の栄養教諭を中心とした、簡単にできる朝食などのレシピを作る授業を行い、栄養の高いものをとるようにと変容してきた。</p> |
| 委員長 | <p>学校の課題についてモデル校や小中の連携について意見をいただいた。今後の課題と、成果も結構あるのではないかと。小中連携とかモデル校の委託をどうするのかという意見をいただいた。それから家庭の中ではノーメディアチャレンジは問題ではないか、かなり形式化していることもあるし、新しいメディアとどう方向づけるのか、難しい問題があるだろう。昨今ニュースで報じられるいじめ等にも関連するかもしれないが、我々の力でさっと解決できるのかできないのか、家庭とどのように連携するのか難しい問題だが、たくさん御意見いただいたので、次年度以降の方向性としても重要ではないかと感じた。また、地域の中で出ているが、教員が大変忙しい中で、どう連携をしていくか、貴重な意見をいただいた。</p> |
| 委員 | <p>富岡中学校のすぐ脇で先日雷が落ちた。津波のこともそうだが、地域と学校というのは安全安心という観点から、たとえば、それぞれの地域というのは水が出たり、土砂くずれがあったりなど、そういったことを地域の大先輩から学んでほしい。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>学び改善の取組は非常にいいので、ぜひ継続してほしい。人事異動などの観点からも、初任者が増えたり、他市町村からの新しい先生方が増えているということから、以前から取り組んできた所沢のいい取組が、さらに継続されるように、充実されるように、そのためにもお願いしたい。1時間の学習目標の提示についてはほぼ定着したということだが、学校の中で評価と支援を噛み合わせたような目標設定や提示になっていないような部分もあるので、そのあとの考える設定やまとめに改善が必要になってしまうような状況があると思う。学習過程のつかむ、自分の言葉でまとめるというのがあると思うが、そういう学習過程を学ぶようなところを、現場で見ている課題のかなという気がする。小中連携について、授業改善等については、教科書の中身についても連携をしていく必要があると思う。</p> |
| 委員長 | <p>次回の取組の方向性の中に出していければと思う。ノーメディアや社会教育の点で何かあるか。</p> |
| 委員 | <p>ノーメディアについてはP連のほうでも取り組んでいたり、社会教育課、文科省などでも取り組んでいたりするが、具体化するときには家庭への提案や協力など、さまざまな工夫が必要なのかなと、やっても浸透していないということがあるのかと思う。学校で授業における1時間の学習目標の提示については、校園長会でもお願いし、2年間でほとんどの学校をまわったが、小学校は本当に100%に近いくらい定着している。中学校はまだまだ低い。ただ60%以上のところでは、ほぼ100%近い定着率である。最後に、まとめとしてのゴール地点をどうさせるかということで、目標提示からゴール地点をどうするか、その途中に発問とか、子どもと言葉のキャッチボールをしながら子供の思考を円滑に、流れでさらに定着させたいと考えている。</p> |
| 委員長 | <p>事務局のほうで丁寧にまとめているので、先ほどの課題、学校への提言、家庭への提言、地域への提言、これを次年度にこんな風に修正していきたい、方向性を定めたいということなので、次回までに少し検討を進めていただければと思う。お手元の資料で連絡はあるか。</p> |
| 事務局 | <p>貴重な意見をいただいた。特にノーメディアチャレンジについては、これをどう先に結び付けていけばいいか、そもそも家庭学習の時間を作ろうとか、家族ぐるみでとかあったが、全校児童生徒に取組をお願いしているが、シートの提出が抽出ということで、ますます学校と相談しながら取組についてはやっていこうと考えている。それ以外の部分についても、授業の問題であるとか、教職員が地域から何を学んでいくのかという部分についても貴重な意見をいただいた。いただいたものを参考に事務局のほうで検討する。2回目の委員会だが、研究委託校の発表と合わせて2月を考えている。期間がかなりあるので、2月にはモデル校の研究の成果を見ていただくとと思うが、今回</p> |

| | |
|-----|--|
| | 委員さんからいただいた意見を参考に、事務局のほうでまとめと方向性について、途中途中で電話や文書・メール等で意見をいただきながら2月開催に向けて進めさせていただければと考えている。協力願いたい。 |
| 委員長 | 内藤教育長、何か最後にごあいさついただければこれで終わりにしたい。 |
| 教育長 | 慎重な審議ありがとうございました。特にノーメディアということについて、多数の御意見があったが、私も教育基本法が改正されて、家庭教育の振興がしっかり位置づけられているということだし、学校教育と社会教育の連携、いわゆる学社連携という言葉も今は死語になりつつあるが、改めて大事だと思った。また、社会教育課のスタッフとか社会教育主任、指導主事等と話し合って、地域の中に定着するような取組にしたい。 |
| 委員長 | これで閉会とする。 |
| 司 会 | 委嘱状をお渡しする。 |